

若州源氏俳諧歌集



後巻

白宮 牛川 薬玉 因基 紅梅 寒梅 妬恋 同 細代 推りセト 秋景 後角 幻恋 了蔵 春山

扇合

初巻

新樹 栞木 鹿笛 栞笛 月前虫 鈴虫 野露 夕キリ 暮秋 秋法 園草花 初ノ草

七夕 扇合

源氏小鑑俳諧歌合卷之六

栞木の巻 新樹 四方歌垣老师撰

裏微如花二

あまのこをかり多くもゆきかほ候を流せ川ここのを

愛と化しつゝあはれあはれとささるるの草花

裏微

あはれと化しつゝあはれあはれとささるるの草花

あはれと化しつゝあはれあはれとささるるの草花

あはれと化しつゝあはれあはれとささるるの草花

目録如花一

あはれと化しつゝあはれあはれとささるるの草花

あはれと化しつゝあはれあはれとささるるの草花

あはれと化しつゝあはれあはれとささるるの草花

目録

あはれと化しつゝあはれあはれとささるるの草花

繁 苗

歌 種

萍

節 躬

元 有

道 茂

長 人

万 磨

年 久



古松  
 川南  
 滝津  
 就彦  
 歌多丸  
 友春  
 道茂  
 鹿笛横笛の音  
 同撰  
 一夫  
 節躬  
 泉花

源氏六二

万都子  
 竹女  
 友春  
 茗成  
 福三  
 内匠  
 苔成  
 総丸  
 入船  
 直人  
 鹿笛  
 同撰  
 月前虫  
 注す  
 裏做  
 裏做  
 裏做

波那細

きりり〜ん月の家歌の

秋花亭 真菊

屋細く種を

か〜き〜〜た〜

裏微如花三

或花の月の桂枝

青柳庵 一夫

あ〜き〜

も〜〜〜

秋金亭

哥多丸

月〜〜〜

こ〜〜〜

あ〜〜〜

流〜〜〜

常江崎

長松園

清女

〜〜〜

月の陸子向ひな〜

盤をよぬ〜

きりり〜〜



源氏六ノ二

目次如花一

つ〜〜〜

友 頼

秋夜の月ふ〜

雄 頼

流虫の音も〜

苔 成

目次

七色のむ〜

相磯辺 年 久

馬月お〜

全高森 桃 粹

て〜月の〜

清 村

秋〜〜

為 成

思月のふ〜

磯辺 人 真 似

常〜〜

内 匠

移〜〜

長 房

月の輪を〜

節 躬



中のふれはよ木のなるあき後一まきまつる秋の夕暮 盛岡 福  
 日のおかれはゆるき夕の海をせよとくあきこの種を 友 春  
 刈きく朝やいよま雅まふら吹くけさ秋の秋風 全  
 目次 ありおのるあき夕小がじんが夜やあきの種をひん 士松東金 真宵  
 美世こころのあき夕の公事ゆりゆりもく秋の夕暮 庵 住  
 むきおとけけけけけけけけけけけけけけけけけけ 内 匠  
 さくさく秋の秋風 琴 人  
 ここの秋の秋風 恥 女  
 秋風 植 丸  
 多月の入る夕 皆 丸  
 たの念の夕の海 奇 多丸

源氏六ノ四

秋の夕暮 全  
 夕のふれはよ木のなるあき後一まきまつる秋の夕暮 全  
 日のおかれはゆるき夕の海をせよとくあきこの種を 真 菊  
 刈きく朝やいよま雅まふら吹くけさ秋の秋風 全  
 ありおのるあき夕小がじんが夜やあきの種をひん 酒 徳  
 美世こころのあき夕の公事ゆりゆりもく秋の夕暮 真 顔  
 むきおとけけけけけけけけけけけけけけけけけけ 酒 徳  
 さくさく秋の秋風 全  
 ここの秋の秋風 真 顔  
 多月の入る夕 真 顔  
 たの念の夕の海 真 顔

秋釋教 種長堂撰

川拾遺 相三浦 豆 成  
 極楽の 清 住  
 川 節 躬  
 川 芳 成  
 川 相高森 桃 粹

秋のやまのやうにふねまゝとてあそびをいかにせん  
 福 徒 盛岡  
 泉 花  
 歌 波 成  
 真 菊  
 樂 飛  
 菴 住  
 福 女  
 満 来  
 節 躬  
 源氏六九五

秋のやまのやうにふねまゝとてあそびをいかにせん  
 全  
 菴 成  
 滝 津  
 三 子  
 真 菊  
 大 徒  
 照 道  
 雄 頼  
 内 近  
 雄 頼  
 暮 秋 同 撰  
 鴨立加祖二  
 秋のやまのやうにふねまゝとてあそびをいかにせん





くれらり秋のさくらをさくらん花をちやなく萩の露に  
 さくらん雨をさくらん雨をさくらん雨をさくらん雨を  
 さくらん雨をさくらん雨をさくらん雨をさくらん雨を  
 さくらん雨をさくらん雨をさくらん雨をさくらん雨を  
 さくらん雨をさくらん雨をさくらん雨をさくらん雨を  
 さくらん雨をさくらん雨をさくらん雨をさくらん雨を  
 さくらん雨をさくらん雨をさくらん雨をさくらん雨を  
 さくらん雨をさくらん雨をさくらん雨をさくらん雨を

源氏六ノ七

泉花 雨守 鳥守 奇多丸 大枝 蛸磨 奇多丸 継女 鄙田 樂雅

楨立山如楓  
 日多海のさくら

古松 酒盛 桃醉 萍頼 川南 人真似 赤志 琴人 恥女 板書

相愛甲 全高森 相磯 芝崎

百もよとあぢりて世也不秋をれかあはあめも後ひて  
 今もこの秋の事無粒と御とてまの事とせ家のむ記  
 まいりやとまあつ種のみきあつこの秋のむうの海草ん  
 こまの事とあまむあむちのあまともこの秋のれぬとあへん  
 押さへてままあぢりれあむと御む海ふらまこり秋  
 日もあへ種も種もさかむえとと秋あへん秋の事  
 動くまきさる屋あふれあて秋のあれを振くまもさ  
 秋秋の秋あせぐるさまきとまきとまきとまきとまきと  
 園草花 同 撰  
 清 住  
 菴 住  
 酒 徳  
 真 菊  
 登 度 女  
 舟 丸  
 蚊 也  
 於 鬼 門  
 逢 女

鴨立次加楓二

あつともこの地根のあまきふ這ひけととく秋秋のあ

うつ今とあぢりて世也不秋をれかあはあめも後ひて

源氏六八

百もよとあぢりて世也不秋をれかあはあめも後ひて  
 今もこの秋の事無粒と御とてまの事とせ家のむ記  
 まいりやとまあつ種のみきあつこの秋のむうの海草ん  
 こまの事とあまむあむちのあまともこの秋のれぬとあへん  
 押さへてままあぢりれあむと御む海ふらまこり秋  
 日もあへ種も種もさかむえとと秋あへん秋の事  
 動くまきさる屋あふれあて秋のあれを振くまもさ  
 秋秋の秋あせぐるさまきとまきとまきとまきとまきと  
 園草花 同 撰  
 清 樹  
 友 頼  
 滝 津  
 雄 頼  
 守 仲  
 雄 頼  
 笠 梨  
 友 頼  
 稻 守  
 下 穂 崎  
 相 妻 甲

鴨立次

あつともこの地根のあまきふ這ひけととく秋秋のあ

うつ今とあぢりて世也不秋をれかあはあめも後ひて

下穂崎

稻守

ちりく少秋あつふ小葉とまきの園あつふくあつ月の以  
あつふとまきの園あつふくあつ月の以  
あつふとまきの園あつふくあつ月の以  
あつふとまきの園あつふくあつ月の以

七夕

同

撰

上総東金

真宵

鳴立伏加相二  
あつふとまきの園あつふくあつ月の以

共

あつふとまきの園あつふくあつ月の以

あつふとまきの園あつふくあつ月の以

あつふとまきの園あつふくあつ月の以

あつふとまきの園あつふくあつ月の以

あつふとまきの園あつふくあつ月の以

源氏六ノ九

古松

年久

蝠磨

泉花

音成

あつふとまきの園あつふくあつ月の以

全成

あつふとまきの園あつふくあつ月の以

弘器

あつふとまきの園あつふくあつ月の以

雄頼

あつふとまきの園あつふくあつ月の以

全成

あつふとまきの園あつふくあつ月の以

赤志

あつふとまきの園あつふくあつ月の以

糸成

あつふとまきの園あつふくあつ月の以

高安

あつふとまきの園あつふくあつ月の以

濱住



三浦 豆 成  
 川 南  
 千代住  
 相思名  
 常江戸崎  
 方 之  
 相愛甲  
 三 枝 成  
 川 南  
 菴 住  
 下総藤心  
 盛岡 帶 文  
 福 徒  
 満 来

源氏六十二

下 守  
 盛岡 糸 長  
 高 安  
 芳 成  
 全  
 常江戸崎  
 長 人  
 全 元 有  
 全 一 賀 鳳  
 泉 花  
 雨 守  
 皆 丸

かきみの指いかにたつたの月もうろたふ事近き 武大尺 少女

新ぬるむのわふあまが後びの事うけし物後 奇多丸

おぼの母もうらたはた妻も入らばおぼの神屋月と 総丸

おぼのあまはあまの母も入らばおぼの神屋月と 縫女

この月もあまの母も入らばおぼの神屋月と 武大尺 雄頼

昔のあまの母も入らばおぼの神屋月と 歌種

かき新あまの母も入らばおぼの神屋月と 物築

當坐扇面画賛合 同 撰

十三点 うつてきき舟の中はあまの母も入らばおぼの神屋月と 奇多丸

馬も入らばおぼの母も入らばおぼの神屋月と 物好

池も入らばおぼの母も入らばおぼの神屋月と 内匠

源氏六ノ十二

十三点 六糸と結びく民も羊の星の家の屋世もまはらぬ 万都子

おぼの月もあまの母も入らばおぼの神屋月と 芳成

かき新あまの母も入らばおぼの神屋月と 一夫

凡のあまの母も入らばおぼの神屋月と 雨守

清月と結びあまの母も入らばおぼの神屋月と 萍

あまの母も入らばおぼの母も入らばおぼの神屋月と 物好

あまの母も入らばおぼの母も入らばおぼの神屋月と 万都子

うろたふの中はあまの母も入らばおぼの神屋月と 酒徳

物築

源氏小鑑俳諧歌合卷之七

白文の巻  
藥玉

四方歌垣老師撰

裏徹  
 寄むきぐあわりの花よりかきさるる花のまもるはよ  
 目妙  
 長し根を引くはゆふまはるる花のまもるはよ  
 上総勝浦町  
 追風  
 全  
 廣住  
 相愛甲  
 笠  
 元  
 常江戸崎  
 有梨  
 後と女  
 守仲  
 真菊  
 愛滝

田碁

同

撰

裏徽加花二

骨の柄の

江戶崎

元有

雨守

裏徽

苔成

為成

内匠

蝠磨

楯丸

島守

追風

無名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

源氏七ノ一

Handwritten text in cursive style, likely a list or commentary related to the '田碁' (Go) section.

Left page containing vertical columns of handwritten text, including the characters '物好', '愛滝', '杖成', '永女', '為成', '於鬼門', '竹女', '雪丸', '真菊' and the section header '裏徽'.

寒梅

同

撰

上総若和田 濱 住



上徳勝浦町 廣住  
 相磯辺 庵住  
 相磯辺 年久  
 名古屋 弘器  
 千代住改 友通  
 岩和田 舟丸  
 全 濱住  
 泉花

源氏七ノ二

波那細  
 相磯辺 年久  
 秋夜菴 縫女  
 秋夜菴 為成  
 秋夜菴 柳不まめ也  
 秋夜菴 梅なり也  
 秋夜菴 錦鳳堂 永雄  
 春秋菴 永女  
 梅なり也

かしこい梅をさぐりかきまゝの枝の白ひきかきむ梅のふ嫁  
 全  
 雪の白ひきまゝの細きのもめ梅もあむ沖の梅が枝  
 楽 雅  
 ちくの目せぬ梅もあむくちの梅もあむく人出せ梅の沖枝  
 置 安  
 雲にぶたのうきかきの中をよひくちの梅もあむく  
 奇多丸  
 雪の梅もほのろのひかりとくちの梅もあむく梅のそと梅  
 真 菊  
 押りかきまゝの枝に梅もあむく梅もあむく梅もあむく  
 全 全  
 梅もあむくひきかきかきかきかきかきかきかきかきかき  
 全  
 かしこい梅のそと梅のそと梅のそと梅のそと梅のそと梅のそと  
 節 躬  
 一物の梅をさぐりかきまゝの枝の白ひきかきむ梅のふ嫁  
 蝠 磨  
 りあむく梅のそと梅のそと梅のそと梅のそと梅のそと梅のそと  
 満 来

源氏七ノ三

かしこい梅をさぐりかきまゝの枝の白ひきかきむ梅のふ嫁  
 皆 丸  
 うづひきかきまゝの枝の白ひきかきむ梅のふ嫁  
 芳 成  
 かしこい梅をさぐりかきまゝの枝の白ひきかきむ梅のふ嫁  
 二 葉  
 かしこい梅をさぐりかきまゝの枝の白ひきかきむ梅のふ嫁  
 愛 滝  
 かしこい梅をさぐりかきまゝの枝の白ひきかきむ梅のふ嫁  
 比 葉  
 裏微  
 つり梅をさぐりかきまゝの枝の白ひきかきむ梅のふ嫁  
 為 成  
 かしこい梅をさぐりかきまゝの枝の白ひきかきむ梅のふ嫁  
 満 来  
 目如花一  
 解けぬ梅もあむく梅もあむく梅もあむく梅もあむく梅もあむく  
 奇多丸  
 目如  
 かしこい梅をさぐりかきまゝの枝の白ひきかきむ梅のふ嫁  
 勝浦町 追 風  
 永 女

梅のそと梅のそと梅のそと梅のそと梅のそと梅のそと  
 同 撰  
 姑 恋

おとくきりしおを考へてこれに花を又移して万都子  
おのふがまゝに人よたまたまをこころとておの木の葉

細代 龜長堂撰

鳴立尺如規二

鳴立尺

あまのやまの川のなほちもあまの川の中はありて  
あひまたせふ人もあまの川に身をまかせ

あまの川に身をまかせとて身をまかせ

あまの川に身をまかせとて身をまかせ

あまの川に身をまかせとて身をまかせ

あまの川に身をまかせとて身をまかせ

あまの川に身をまかせとて身をまかせ

あまの川に身をまかせとて身をまかせ

源氏七、四

模立山加規一  
あまの川に身をまかせとて身をまかせ

あまの川に身をまかせとて身をまかせ

あまの川に身をまかせとて身をまかせ

あまの川に身をまかせとて身をまかせ

あまの川に身をまかせとて身をまかせ

あまの川に身をまかせとて身をまかせ

あまの川に身をまかせとて身をまかせ

あまの川に身をまかせとて身をまかせ

あまの川に身をまかせとて身をまかせ

あまの川に身をまかせとて身をまかせ

あまの川に身をまかせとて身をまかせ

万都子

真顔

内近

勝浦町 廣住

樂雅

守仲

永女

こや子

満来

雄頼

勝浦町 追風

泉花

盛岡 無名

江戸崎 元有

樂雅

下守

磯辺 年久

川南

万都子

哥多丸

高安

甲子のたづなふかたつあつあつあつれ舞のひまよふし  
 たづなふかたつあつあつあつれ舞のひまよふし  
 若田のよひつれたづなふかたつあつあつあつれ舞のひまよふし  
 松原のひまよふかたつあつあつあつれ舞のひまよふし  
 後世をたづなふかたつあつあつあつれ舞のひまよふし  
 島守

秋菓

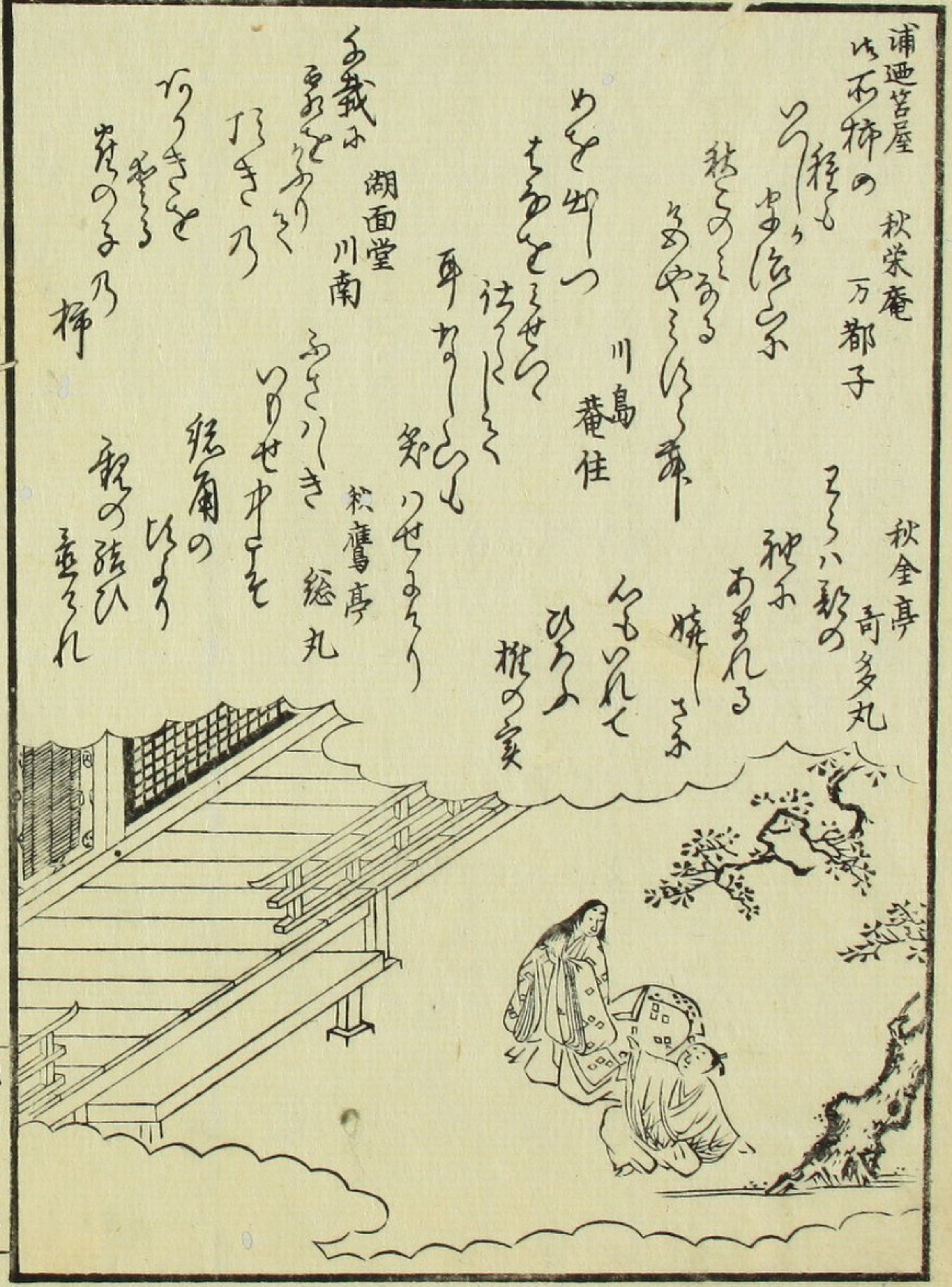
同撰

鴨立沢加楓二  
 雪丸  
 節躬  
 濱住

源氏七ノ五

山崎のたづなふかたつあつあつあつれ舞のひまよふし  
 川南  
 奇波成  
 滝津  
 縫女  
 万鷹  
 濱住  
 夜宴  
 為成  
 奇波成  
 波々枝

大志ふきんと村長のむらじとせぬたのま乃折 苔 成  
 ありとる海とともとのまの中ふひとくちのまのまの折 竹 女  
 柿の思ふゆび中夜のもともたかおまをまつとまのまの 永 雄  
 勢とともとのまのまの折柿をわむけつとまのまのわらん 入 船  
 ありとる海とともとのまの中ふひとくちのまのまの折 真 菊  
 河原のまのまのまのまの折柿をわむけつとまのまのわらん 内 匠  
 ありとる海とともとのまの中ふひとくちのまのまの折 清 女  
 ありとる海とともとのまの中ふひとくちのまのまの折 愛 滝  
 ありとる海とともとのまの中ふひとくちのまのまの折 長 房  
 ありとる海とともとのまの中ふひとくちのまのまの折 武大伏 少々女  
 ありとる海とともとのまの中ふひとくちのまのまの折 槌 丸



源氏七ノ六

浦邊宮屋 秋栄庵  
 此の柿の 万都子

秋全亭 奇多丸

程の 中島

神子 あまのり

りせ出つ 川島 菴住

あまのり 神子

たかおとせつ 法橋

あまのり 神子

ふ我ふ 湖面堂 川南

あまのり 神子

あまのり 神子

あまのり 神子

あまのり 神子

あまのり 神子

初恋

同

撰

鳴立沢加祖二

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

磯辺

年久

双に花をけしめぬのあはれをさかんきよき心よき心

雄頼

鳴立沢

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

盛岡

泉花

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

磯辺

無名

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

人真似

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

樂雅

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

物好

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

孫と女

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

磯辺

年久

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

於鬼門

源文七ノ七

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

真菊

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

盛岡

鄙田

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

雪丸

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

内匠

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

節躬

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

大沢

少女

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

権丸

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

島守

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

二葉

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

為成

模立加祖一

あふたのこころをいせしむるはかたきつらきあはれの花をさかん

勝浦町

廣住

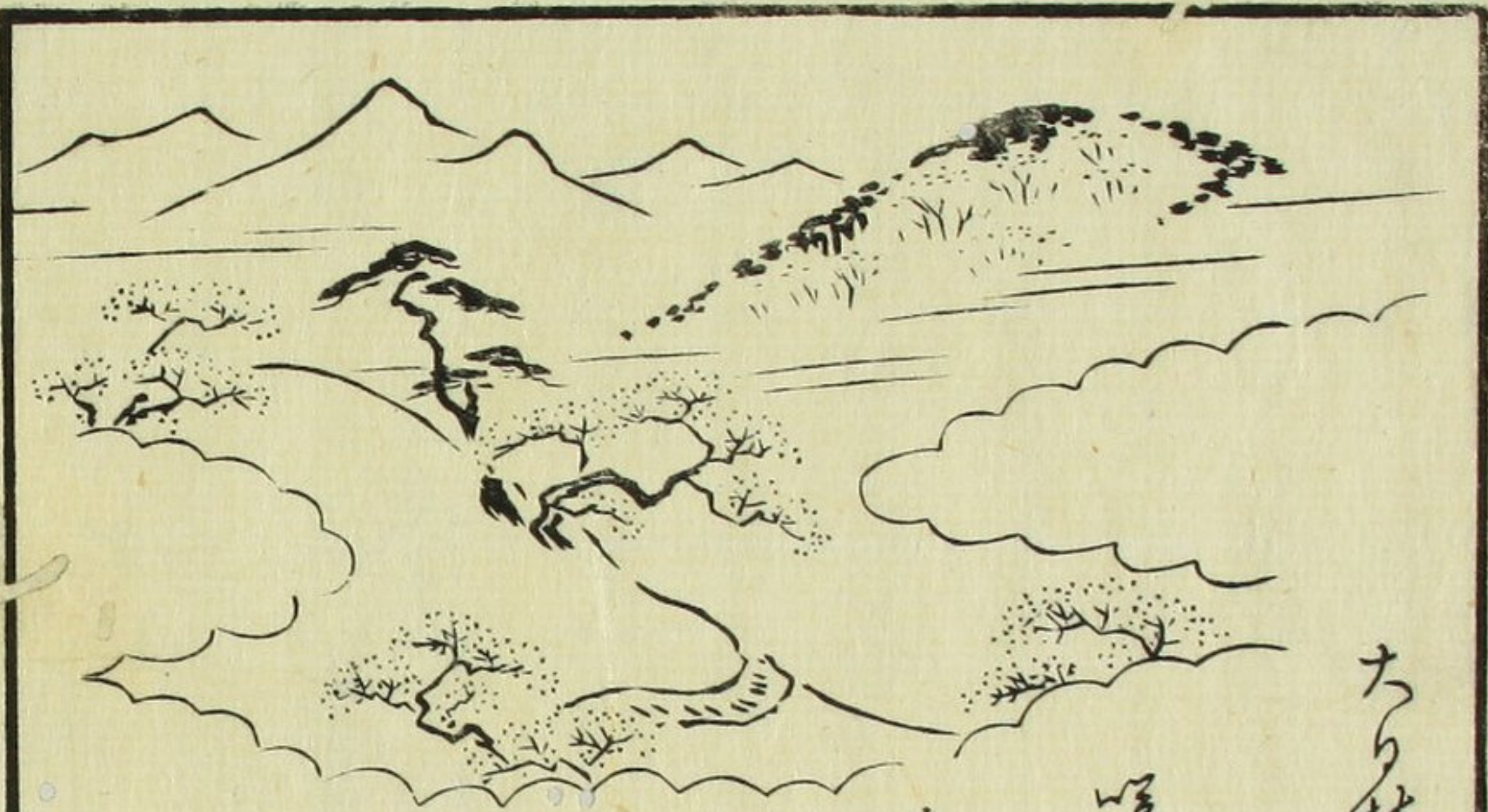
多敷原なるふけぬの口をひくもんとあふ女子 愛甲 三 枝  
 中もあついろはの文字の書きあつくとあみくもぬる 全 酒 盛  
 多くあついろはの杜のうもを尻までおきまも出するぬる 下徳塚寄 涼 音  
 わかぬかたの校のやうにふれぬる 下徳塚寄 永 女  
 いろはの幼あまびのるあついろはのあついろはのあついろは 下徳塚寄 万 都 子  
 秘あついろはのあついろはのあついろはのあついろは 下徳塚寄 徳 丸  
 ありあついろはのあついろはのあついろはのあついろは 下徳塚寄 奇 多 丸  
 あついろはのあついろはのあついろはのあついろは 下徳塚寄 友 頼  
 いろはのあついろはのあついろはのあついろは 下徳塚寄 残 通  
 若くあついろはのあついろはのあついろは 下徳塚寄 川 南  
 ねがひあついろはのあついろはのあついろは 下徳塚寄 縫 女

源氏七ノ八

うらみあついろはのあついろはのあついろは 下徳塚寄 友 頼  
 ねがひあついろはのあついろはのあついろは 下徳塚寄 皆 丸  
 ねがひあついろはのあついろはのあついろは 下徳塚寄 芳 成

春山 同 撰

鳴立沢如楓 江戸崎 元 有  
 さついろはのあついろはのあついろは 江戸崎 清 往  
 ねがひあついろはのあついろはのあついろは 江戸崎 飯 成  
 ねがひあついろはのあついろはのあついろは 江戸崎 総 丸  
 ねがひあついろはのあついろはのあついろは 江戸崎 全  
 ねがひあついろはのあついろはのあついろは 江戸崎 真 菊  
 ねがひあついろはのあついろはのあついろは 江戸崎 竹 女



ちり枝とささぎのあまの  
与鳳亭 枝成

あまのささぎのあまの  
鎧渡亭 萍

あまのささぎのあまの  
鐘渡亭 萍

あまのささぎのあまの  
鐘渡亭 萍

あまのささぎのあまの  
鐘渡亭 萍

あまのささぎのあまの  
鐘渡亭 萍

秋花亭 真菊

あまのささぎのあまの  
鐘渡亭 萍

あまのささぎのあまの  
鐘渡亭 萍

奇多丸

あまのささぎのあまの  
鐘渡亭 萍

源氏七ノ九

鴨立沢

後園中より一せりてあまのささぎのあまの

岩和岡 濱 住

愛甲 角文字

相高森 桃 醉

物 好

菴 住

夜 宴

万 都子

総 丸

全

名古屋 弘 器

盛岡 底 根

大はるかにあまのささぎのあまの

あまのささぎのあまの

あまのささぎのあまの

あまのささぎのあまの

あまのささぎのあまの



耻女  
 真菊  
 全  
 長房  
 愛滝  
 芳成  
 泉花  
 人真似  
 雨守  
 物好  
 之

源氏七ノ十

古松  
 清住  
 年久  
 置安  
 酒德  
 友雀  
 総丸  
 全  
 弘  
 真菊  
 底根

古松の根は...  
 清住の根は...  
 年久の根は...  
 置安の根は...  
 酒徳の根は...  
 友雀の根は...  
 総丸の根は...  
 全の根は...  
 弘の根は...  
 真菊の根は...  
 底根の根は...

盛岡

名古屋



